

東北地方交通審議会第1回観光戦略部会議事要録

日 時：平成15年7月11日(金)14:00～16:00

場 所：ホテルメトロポリタン仙台 3階 星雲

出席者：恩地委員、青木臨時委員、清水臨時委員、遠藤芳雄専門委員、佐藤潤専門委員、志賀専門委員、津嶋専門委員、中谷専門委員、山川専門委員、竹森専門委員、小原専門委員(代理：田中観光課長)、遠藤正明専門委員(代理：桃生参事)、吉野専門委員(代理：高橋参事)、野村専門委員、丹野専門委員(代理：須賀主幹)、佐藤正一郎専門委員(代理：黒田参事)
久米東北運輸局長、上田東北運輸局次長、遠藤企画振興部長、小森交通・観光計画調整官、田鎖交通・観光計画調整官、江原企画課長、三澤観光振興課長

次 第

1. 開会
2. 東北運輸局長あいさつ
3. 議題
 - (1) 部会長選出、部会長代行指名
 - (2) 部会長あいさつ
 - (3) 今後の審議の進め方について
 - 第6回東北地方交通審議会の報告
 - 観光戦略部会の審議日程等
 - 論点案
 - (4) 閉会

1. 開会

事務局(江原企画課長)

定刻となりましたので、只今より東北地方交通審議会第1回観光戦略部会を開催させていただきます。

部会長に議事進行をお願い申し上げるまでの間、私が進行役を務めさせていただきますのでよろしくお願い致します。

本日の部会では、まず、観光戦略部会の部会長をご選任頂きます。

その後、「今後の審議の進め方」として、3月26日に開催されました第6回東北地方交通審議会の報告をさせていただいた上で、審議日程及び論点について、事務局の案をご説明させて頂き、ご審議を頂きたいと思っております。

続きまして、本日ご出席の委員の皆様をご紹介申し上げたいと思っております。

(出席者名簿により順次紹介)

2. 東北運輸局長あいさつ

事務局(江原企画課長)

それでは、本部会の開催にあたりまして、東北運輸局長よりご挨拶を申し上げます。

久米東北運輸局長

本日は、皆様、ご多忙の中、東北地方交通審議会 観光戦略部会にご出席賜りまして、大変ありがとうございます。

また、日頃より国土交通行政にご理解・ご支援を頂いておりますことに改めて御礼申し上げる次第です。

このところ経済の停滞が続いておりますが、新たな経済活性化の牽引役として期待されているものが、観光ではないかと考えております。

観光は、皆様ご案内の通り、非常に裾野の広い産業であり、その効果は旅行業や宿泊業から製造業・農林水産業に至るまで経済のあらゆる分野に広く及んでおります。今後アジアを中心にして、国際観光市場の大幅な拡大が予想されることも踏まえ、観光は21世紀のリーディング産業として期待されているところです。

また、観光交流は、地域間の相互理解を深めるとともに、自らの地域のアイデンティティを見直す機会となるものでもあります。

こうした観光の意義を踏まえ、政府においても、観光振興を国策の最重要分野のひとつと位置づけ、小泉首相自らが観光立国懇談会を主宰し、その報告書を取りまとめられるなど、観光振興に対する取り組みを強化しているところです。

特に、現在のところ比較的低水準にある、我が国への外国人観光旅客の来訪促進については、2010年までに現在の倍増の年間1,000万人の外客の誘致を目指して、昨年12月に国土交通省が「グローバル観光戦略」を策定し、また、官民を挙げた訪日キャンペーンである「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を平成15年度から本格展開するなどしております。

東北地方では、昨年12月に東北新幹線が八戸まで延伸されました。この結果、首都圏をはじめとする他地域からの誘客や東北域内の広域周遊観光の可能性が高まっております。事実、二次交通整備等の関連施策の効果もあり、北東北全体で観光客の増加が見られております。また、平成18年度には仙台空港アクセス鉄道の開業も予定されており、国際交流拠点の機能が強化されることとなっております。

元々、東北地方は特色ある祭りや四季の自然、豊富な温泉など観光資源には恵まれております。その上、観光の基盤となる高速交通体系の整備も進んできておりますので、観光振興へのポテンシャルは他の地方ブロックと比べましても、非常に大きいものがあると言えます。

しかしながら、現状を見ますと、外国人観光旅客の入り込み数が全国の約4%にとどまっているなど、東北の観光はそのポテンシャルを十分に活かしきっていない状況にあります。

地域の魅力あるいは素材が、単にポテンシャルに留まっているということは、決して誉められることではないと思っております。

現在のポテンシャルを、早急に活かしきった上で、さらに地域の特性を活かした一

層の魅力の向上、そういった一連のサイクルを早急に作っていかねばならないと思っております。

最近、いくつかの観光の面の積極的な取り組みが成果を上げつつあるところですが、東北の地域活性化には観光が極めて重要な役割を果たすと考えられることを考慮すると、東北各県の官民が一体となった観光戦略の策定と実施がまさに急務となっております。

こうした問題意識から、今年3月の第6回東北地方交通審議会において、「東北地方における望ましい交通のあり方及び観光振興戦略」について諮問をさせていただき、特に観光振興戦略について専門的にご審議いただくために、観光戦略部会を設置していただくこととしました。

観光という成長分野、そしてまた主要国が国家戦略としているこの観光という分野では、国際的あるいは国内の各地域との競争が激化しております。これに東北地方が勝ち抜いていく必要があります。

そのため、これから外国人観光旅客を中心に広域周遊型観光のニーズが増大してくること等を踏まえましても、東北各地域間での連携を強化し、広域的に官民が一体となって取り組んでいくことが必要です。これと同時に各地域が魅力あるまちづくりを並行して進めていくことが大切です。そのためには、ビジット・ジャパン・キャンペーンをはじめとするプロモーション活動や国際観光地としての『東北』のイメージづくりをはじめとする様々な施策を迅速かつ効率的、戦略的に実施していくための役割分担や中心となる組織の構築などに関する、統一的な指針としての「東北地方観光振興戦略」が必要であり、重要なものと思っております。幸いにも、この観光戦略部会には東北観光戦略を練るための最高のメンバーの方々にお集まりいただいております。委員の皆様には、大変ご多忙の中お集まりいただきましたことに改めて感謝申し上げますとともに、今後の審議、そしてまた活発な意見交換をお願いしまして、あいさつとさせていただきます。

どうもありがとうございました。

3. 議題

(1) 部会長選出、部会長代行指名

事務局(江原企画課長)

ありがとうございました。

それでは、早速でございますが、議事に入らせていただきます。

本日最初の議題は、東北地方交通審議会観光戦略部会部会長の選任でございます。

部会長の選任につきましては、地方交通審議会規則に基づきまして、委員の互選によることとされておりますが、事務局といたしましては、観光に関し学識経験豊かな恩地委員をお願いしたいと思っております。いかがでしょうか。

《 「異議なし」の声多数あり 》

ご異議がないようですので、恩地委員に部会長にご就任頂きたいと思っております。恩地委員、いかがでしょうか。

恩地委員

ご推薦頂きまして、いつもご指導いただいている皆様を差し置きまして甚だ僭越かと思っておりますが光栄に存じております。ありがたく受けさせて頂きたいと思っております。

事務局(江原企画課長)

恩地部会長よろしくお願いたします。また、部会長には、地方交通審議会規則に基づきまして部会長代行をご指名頂きたいと思っております。いかがでしょうか。

恩地部会長

それでは、社団法人日本観光協会の東北支部長としても東北地方の観光振興の中心的な役割を担っていらっしゃる清水委員に是非お願いたしましたと思っております。

事務局(江原企画課長)

いかがでしょうか。

《 「異議なし」の声多数あり 》

部会長からのご指名であり、各委員からもご異議がないようですので、清水委員に部会長代行にご就任頂きたいと思っておりますが、清水委員、よろしいでしょうか。

清水委員

部会長からのご指名ですので、引き受けさせて頂くことと致します。

(2) 部会長あいさつ

事務局(江原企画課長)

どうもありがとうございます。

それでは、本部会は、恩地委員を部会長に、清水委員を部会長代行として、審議を進めさせて頂くこととなりました。

それでは、早速ではございますが、恩地部会長には部会長席にご移動いただき、ご挨拶を賜りたいと思っております。

恩地部会長

ただいまご推薦を頂き、いつもご指導を頂いている皆様を前に、甚だ僭越とも思いますが、年齢へのご配慮と考え、ありがたくお受けいたします。東北地方交通審議会観光戦略部会の部会長をということで、宮城大学の恩地宏と申します。改めまして、どうぞよろしくお願いたします。

皆様ご案内のとおり、今後の東北の発展における観光振興の役割は非常に大きなものであるという認識が共通のものになりつつあることはご同慶のいたりであります。

東北地方では、これまでも各地域において官民の各主体が、観光振興のための様々な取り組みを精力的に進められ、それぞれ成果を挙げてこられました。

しかし、観光が21世紀のリーディング産業となるために、観光を巡る国家間や地域間の競争が激化することが予想され、我々がこれに打ち勝つためには、一層の努力が求められていると考えております。

日本国内のみならず、韓国が、台湾が、中国が、ヨーロッパが、ライバルとなるシーンがもう目の前に来ていると考えられます。

こうした状況下で、東北地方の各地域の官民が一体となった統一的な指針として観

光振興戦略を策定すること、そしてそのために東北地方交通審議会に観光戦略部会が設置されたことは、非常に意義深いものと考えておりますし、また、よい成果を挙げる責務の重さをひしひしと感じております。

なお、これからご審議いただく観光振興戦略については、これから事務局より報告いただきますように、観光振興のための『東北の個性』とは何か、『東北の特性』とは、またそれらを活かしたインパクトのある具体的施策を提言するとともに、その実現への道筋を示すこととしたいと考えております。

持続的な議論の積み重ねが、5年後により仕事をしたと評価されるように、各委員の皆様英知を頂いて、努力していきたいと思っております。ご協力をお願いして、私の挨拶とさせていただきます。

事務局(江原企画課長)

ありがとうございました。

それでは、これからの進行につきましては、恩地部会長にお願いを致します。

(3) 今後の審議の進め方について

第6回東北地方交通審議会の報告

観光戦略部会の審議日程等

恩地部会長

それでは、議事を進めさせていただきます。議題3の「今後の審議の進め方について」ですが、まず、の第6回東北地方交通審議会の報告と の観光戦略部会の審議日程等について事務局より説明をお願いします。

事務局(江原企画課長)

それでは、ご説明させていただきます。

《 資料2・3に基づき説明 》

以上でございます。

恩地部会長

ただ今、事務局から報告を頂きました。簡単にまとめますと、1つは、3月に開催された本審議会の報告、2つ目として、緊急の課題である観光振興について、集中的に議論を進めるため、この部会が設置されたこと、3つ目に、スケジュールとして、まず、今年冬頃、部会提言をとりまとめ、中間報告として、本審議会に報告すること、4つ目として、その後、本答申に向けて審議を進める、というものでした。

ただ今の事務局の説明・提案について、何かご質問・ご意見ございましたらお願いいたします。

では、特にご質問・ご意見等ないようですので「今後の審議の進め方について」のうち、審議日程につきましては、事務局案に対しご了解を頂けたものとして、今後の審議はこの案により進めて行くこととしたいと思っております。

論点案

恩地部会長

続きまして、の「論点案」に入ります。まず、事務局から説明をお願いします。

事務局(江原企画課長)

それでは、事務局から論点案についてご説明いたします。

《 資料4、資料5、資料6に基づき説明 》

以上でございます。

恩地部会長

ただいま事務局から説明のありました論点案につきましては、資料4が東北の観光の現状と現在進められている施策、資料5が東北の観光全体にわたる主要課題、資料6が、特に国際観光振興に関する課題をまとめたということです。

審議の進め方としては、それぞれについて、順次にご議論頂きたいと思います。

資料4の東北地方の観光の現状と施策につきましては、各自治体から行っている施策等について報告いただき、資料5と6につきましては、ご意見をお持ちの皆様から、あるいは関係の深いと思われる方を私から指名させていただきまして、お一人3分程度でご報告をお願いしたいと思います。特に、早急に取り組むべき点につきまして、皆様、何が問題と考えておられるかということも含めてご報告頂きたいと思います。

それでは着席順で恐縮ですが、青森県の竹森委員からお願いいたします。

竹森委員

青森県の竹森でございます。青森県の観光につきましては、平成10年7月に文化観光立県を宣言しまして、知的充足感、そして感動を与える観光を目指していこう、そして文化性を重視した施策を推進していこうということにしてきたところです。この文化観光立県宣言のさらなる振興を図るため、またより文化性を重視した観光行政、国際的視点に立った観光振興を図るために、今年の4月に、全国に先駆けて文化観光部を設立いたしました。

さきほど、事務局からの説明の論点にありましたように、新幹線の八戸延伸開業に伴うはやて効果、外国人の誘客対策として先進的に取り組んでいる青森ウェルカムカードについて説明いたします。

新幹線の開業効果につきましては、昨年の12月1日に開業してから早7カ月になりました。八戸市及び経済界等において、新幹線効果を取り込むべく積極的な取り組みをしているところです。その一環として、八戸市及び弘前市で市内循環バスを整備し、100円あるいは200円という安い運賃で運行しています。また、八戸においては観光ボランティアガイド「おもてなし隊」が活躍しています。

5月までの観光施設の入り込み状況をいくつかヒアリングした結果としては、八戸市博物館が対前年度比171.1%増、三内丸山遺跡が229%、津軽藩ねぷた村が139.2%、八食センターが140.5%、弘前さくら祭りが376.4%でした。しかし一方で、一部にこの開業時の勢いにかげりが見える施設や昨年同期を下回る施設も若干あります。

今後とも、開業効果を全県に波及させていく必要があると思っています。

また、8月には新幹線開業後初めての夏祭りが県内各地で開催されます。青森のねぶた祭、弘前のねぶた祭、八戸の三社大祭、五所川原の立佞武多などが始まります。

先般、6月22日から28日まで、東京の丸の内ビルにおいて、この立佞武多を展示したところ、好評を博しました。これまで以上に観光客が訪れるよう努力をしていかなければいけないと考えているところです。

次に、青森のウェルカムカードについて説明します。これはインバウンドの対策の一環として、外国人旅行客の誘客を図ろうと、制度を平成9年から、滋賀県長浜市に次いで全国で2番目に導入したものです。このカードは、施設の利用に際してカードを提示することにより割引が受けられるというものです。対象となる外国人は、在留期間が1年以内の方、県内の大学等に通う留学生で、割引率は、各施設が独自に設定しますが、概ね、宿泊施設が20%、バス等の公共交通機関が50%です。運営主体は、県内の民間の観光関係者、県、市町村など102者からなる青森ウェルカムカード運営協議会が主体となって取り組んでいます。

利用可能施設は、宿泊施設、物産販売施設、飲食施設、交通機関などで約150施設を指定しています。発行は、14年度で約2,700枚であり、これは、昨年、冬季アジア大会があったため、利用が多かったのですが、通常は1,500枚程度です。利用者は韓国の方が多く、全体の65%を占めています。利用施設別では物産販売施設、観光施設が多かったです。13年度の伸びは65%、14年は80%あります。

今後の展開としては、外国人観光客の一層の利便性を考えて、北東北三県で国際観光振興のための国際観光テーマ地区協へ運営主体を移行して、北東北三県で実施していけないか検討中で、できれば秋までには実施したいと考えています。

先ほどの事務局の説明の中でも東北全体での話もありましたし、できるだけ拡大してやっていければいいと考えております。

恩地部会長

ありがとうございました。

豊富な事例を提示していただきました。事務局の方でこれを消化していただきたいと思えます。

続きまして、岩手県田中観光課長お願いします。

小原委員(代理：田中観光課長)

岩手県でございます。3つのポイントに絞ってお話ししたいと思います。

岩手県の観光振興につきまして、これまで取り組んできたことがまず第1点目です。ご案内のとおり岩手県は大変広大な面積をもっています。したがって、岩手県をまとめて売るということは現実的には厳しい。首都圏を考えた場合に1泊2日、2泊3日という行程ですべてを回るということはとてもではないができない。そこで、7、8年前から県内を4つに分けて、4つの王国として売っています。南から、平泉を中心とする南部の内陸と沿岸のエリアを黄金王国。県中央部を湯雪(ゆき)王国。内陸の県北を穀彩王国。北部沿岸を魚彩王国として、それぞれの持ち味を活かしながら進めてきたところです。この中でも魚彩王国は、陸中海岸国立公園を背景としてがんばってきたが、交通の便がよくないため、集客数としては少なかったところです。

2点目としては、これからの観光を考えたところ、15年度からは、4つの王国はそのまま進めながら、全体のコンセプトを、言葉としては「ゆったりぬくもり感のある岩手ならではの旅」を再構築する。これは従来の観光資源に加え、最近のスローライフや本物志向といった観光全体として流れがあり、これに十分応えられる素材があるのではないかと、そのためにはどういったものを活用して観光振興につなげていくべきかという視点に立って、今年度から新たな取り組みとして行うものです。

また、知事が「がんばらない宣言」ということを言いました。経済界などから若干おしかりを受けていますが、誤解なんです。これは、ファーストフードなどに逆行して、時間かけてもいいので、ゆったりと旅を楽しんでもらおうということで、ターゲットを中高年層に絞った形での観光振興策を再構築しようとしています。

さらに、北三県では国際観光のみならず国内においても連携を進めており、北海道、大阪、名古屋、九州の県外事務所を三県合同事務所にしていきます。観光についても広域連携を進めています。

国際観光については、観光客は県内では収まらないので、各県とも連携していこうということで取り組んでいます。

3点目として、岩手県にとっての課題としては、国内観光については、広大な面積ということで、県内に入ってから二次アクセスとしての交通機関が乏しいので足をどう確保するかということです。

国際観光の面では、残念ながら岩手県には国際定期便がありません。ということで、台湾からのチャーター便が年間20数便～30便あります。ソウルについては秋田県と青森県に定期便があるので、秋田 in の岩手を通して青森 out といった3泊4日～4泊5日のツアーが、6月から毎週のように入ってきている。このように三県連携して行っています。

最後に、岩手県としては、広域観光を進めるということではありますが、さはさりながら、ある面ではライバルの面もあるので、ターゲットによっては、他の県との差別化を強調していくことも考えていきたいと考えています。

恩地部会長

ありがとうございました。

各県のことでありますので愛情たっぷりにお話しただくお気持ちはわかりますが、お願いしております3分というのを念頭に置いていただきますようお願いいたします。

では、地元宮城県桃生観光課長お願いします。

遠藤委員(代理：桃生参事)

宮城県においても、平成10年に「観光立県10カ年計画」を策定し、この間、国体、サッカーワールドカップ等が行われました。また、14年度に19年度までの後期計画を策定したところです。10年度に計画を策定したときには入り込み客数について、年間5,000万人という目標を立てたが、14年度時点では4,600万人でした。当初約2%のオーダーで伸びて行くと考えていたものの、9.11米国同時多発テロや景気の影響等で横ばいが続いています。

しかし、後期に策定した計画においても5,000万人の目標だけは変えていません。

後期計画は、県への集客というのがやはり主目的ではありますが、その目的の達成方法、戦略は、前期とは変わってきています。と言うか、変えざるを得ない状況になってきています。例としては、広域観光のニーズが高まっており、外国人旅行客に対しても広域的なルートというのは当然のこととなっています。宮城県だけが一人勝ちということは難しい状況になっています。そのため、宮城県としては、山形県や福島県、栃木県とルートの設定について研究しています。そして、記者やエージェントの招聘を行っているところです。

今後については、やはり、私は宮城県の課長ですので、宮城県を売ることを大事にしていりますが、岩手県のお話のように、好むと好まざるとに拘わらず、県の枠を超えた形での取り組みが必要になってくると思っております。

現在、宮城県と山形県の観光マップは、両県が一体となったものを作っています。山形県は、作製している全ての観光マップをこれにしており、宮城県でも今年から発行部数の3分の2はこれをメインの地図として使用することにしています。

このように観光戦略が変わってきています。

細かい点になりますが、先日の7月5日の「東北地方戦略懇談会」において、宮城県知事が話しましたが、観光の経済に占めるウエイトが大きくなっている、また、リーディング的なポジションにあるということから、本年4月より、国際経済室という組織を観光課の姉妹室として設置しました。ここでは、ターゲットを中国としており、その一環として、中国人団体旅行客へのビザ発給対象地域を現在の北京、上海、広東以外に拡充するよう政府に要望しています。

国でもいろいろやっていただいているが、県としても、職員の給与5%カットを含めた「経済産業再生戦略」を500億円規模のオーダーで本年から実施することとしています。こういった戦略を検討する中でも、「観光分野での取り組みはどうか。」という聞かれ方をします。今、15年度から17年度の戦略を固めつつありますが、15年度においては、12月から仙台で劇団四季の「キャッツ」公演があり、また、来春から宮城と東京を中心としたNHKの朝の連続ドラマがスタートするということもありますので、この2つを材料として活用していきたい。また、来年度以降は中国に向けての対応や、全体としての誘客を図っていきたいと考えています。

恩地部会長

ありがとうございました。

続きまして、秋田県の高橋参事お願いします。

吉野委員(代理：高橋参事)

秋田県でございます。

秋田県は、ご承知のとおり主な観光としては自然を中心としたものですが、白神、十和田、田沢、栗駒、鳥海と多くが県境にあるため、これらのネットワークを如何に繋ぐかということが大きな課題となっています。

また、「地域の個性ともてなしの心で築く観光産業の振興」という銘を打って施策を進めている。その中で、実際県内各地域に、我々が気づかないような観光客を惹きつける多くの優れたものが眠っているのではないかという気がしており、これを活か

しきっていないと思います。

さらに、事務局の説明にもあったように、団体から個人・小グループへと観光客が変化している。こういったニーズに対応し、どのようにすれば多くの観光客を秋田県へ惹きつけることができるか検討しています。1つは、観光団体お互いの連携を深めるため、県が中心となり、県北地域、男鹿地域、角館・田沢湖地域で、地元の市町村、民間の観光関係の方々等で手を取り合い、プランを作成し、現在ある様々な観光資源をブラッシュアップしながら、その地域の観光プロジェクトを推進するための現地密着型振興班を設置したところです。実際動き出すと、面白い結果が出るものと思っています。

二次交通アクセスという観点では、個人旅行が多くなっているという点からも、新幹線駅及び空港からの利便性の向上が重要だと思っています。当県においては、二次交通について15年度から支援を実施することとしています。例えば、秋田空港から角館・田沢湖・乳頭温泉へ、民間団体とタクシー事業者がタイアップして予約制の乗合ジャンボタクシーを運行して好評を得ているが、このような形態が増え、空港のみならず主要駅からも主要観光地へのアクセスが確保されれば、誘客にとってもよい結果が出るものと考えています。

国際観光については、韓国のソウルとの定期便が週3便ありますが、今年に入ってから苦戦をしています。そのため、如何に韓国の方を東北へ誘客できるかということで、韓国の方が何に対して興味を持っているかということ、北東北三県と北海道が連携して開設しているソウル事務所から情報を得ながら検討していきたい。現在のところ、温泉、スキーやゴルフなどにターゲットを絞り、うまくエージェントと連携していければと思っています。

恩地部会長

ありがとうございます。

4県の方にお話しを頂きましたが、ここでペースを変えて、資料5、6の東北の観光に関する課題及び国際観光振興に関する課題についてのご意見を頂いた後、残り2県1市の方にお話しを頂いた方が、議論がうまく行くと思いますので、そのようにさせて頂きたいと思っています。

まず、東北全体に関する主要課題について、どなたかいかがでしょうか。

では、こちらから指名をさせていただきます。東経連遠藤常務いかがでしょうか。

遠藤芳雄委員

東北経済連合会では、平成12年11月に東北地域国際観光推進協議会を設立し、外国人観光客の誘致に取り組んできました。これは、東北を訪れる外国人観光客がわが国全体の4%程度しかく、すごく少ないからです。そのため、外国人観光客を東北へ呼ぶために3年間活動を展開してきました。

国内観光については、別にエージェントさんを中心に組織する東北観光誘致連絡協議会というものがありました。

この2つの組織を5月に一緒にし、東北広域観光推進協議会を設立したところです。事務局を東経連で引き受け、国内・国際観光振興事業を3名の職員で実施しています。

事業を行っていて、一番感じることは、東北の知名度が低いということです。台湾、中国、韓国の旅行博等に参加してパネル展示やパンフレット配布を行っていますが、ほとんど知名度がないのが実態です。国内でも、東京はよいのですが、大阪では、東京までは行くその先の東北までは行ったことがないという人が多いのです。これからは、海外はもとより、東京、大阪を中心に国内でも東北の知名度を高めていくことが必要だと思っています。

次に、新幹線が八戸まで延伸した効果により、北海道へ行く人が増えています。これは、JR北海道の特急が八戸まで迎えに来ていることが大きいわけです。これを利用して、逆に北海道の方を南東北に呼ぶというキャンペーンを北海道で実施することも必要であると思っています。

先ほど秋田県の方のお話しにもあったように、蔵王や十和田湖など東北の観光地は県境に多くあります。このため、広域連携が非常に大事であり、東北6県がまとまってやらなければ、効果的なPRはできないと思っています。東北広域観光推進協議会は、少ない予算ではありますが、積極的にPRを行っていきたいと考えています。ご協力をお願いいたします。

恩地部会長

ありがとうございます。

続いて、国際観光旅館連盟の佐藤支部長お願いします。

佐藤潤委員

国際観光旅館連盟は、政府登録の国際観光旅館が会員として集まっている国土交通省所管の社団法人です。国内と国際観光について、私どもの今までの歩みの中でお話しします。

国内旅行については、関係の皆様のご努力により東北地方の観光地は全国的な土俵にようやく上れたのではないかと思います。一番はじめに大きな起爆剤となったのは、高速自動車道の開通でした。これは地殻変動が起きたような大変大きなもので、その効果が、今現れていると思います。次に、新幹線の開通です。これも大変大きな起爆剤となって、その効果を頂いています。国内旅行は、世の中の変化により、市場も成熟化し、個性化しています。世の中の価値観も大きく変化し、自然回帰という動きが日本中を駆けめぐっています。今までの価値観と全く違ったものが求められるようになっていきます。東北地方では、家族旅行が多くなったという話もありますが、まだまだ関西、東京からある程度の団体のお客様もいただいています。ただ、交通の利便性がよくなったからなのか、日本人の特性なのか、なかなか長期滞在という形が取れていないように思います。先日も、滋賀や奈良、福井から普通に1泊2日で来られます。もう少し、2泊とかかけてもらえないかと思いますが、日本人の気質だと思いますので、よほど国で宣伝してもらわないと、日本人に、ゆたかにゆっくり過ごしてもらおうというのは、なかなか軌道に乗らないのではないかと思います。さらに、日本中一緒に休暇になるので、混雑する時期は私どもの施設が10倍、20倍あっても足りないくらいの予約を頂くのですが、事務局の説明にもあったように、季節波動が非常に大きいというのが東北の特徴です。この季節波動をどのように埋めるかが課題であ

ろうと思います。

観光振興施策の例にもあるように、二次交通の整備がこれから大切になってくると思います。国内旅行のお客様からも、個人では、まだまだ交通費が多くかかってしまうとの声をたくさん聞きます。これが一番の課題だと思っています。

国内観光では、各県や市の行政が別々に日本国内いろいろと誘致活動に行っているものですから、非常に言葉が悪いんですが、各県から招待を受けたエージェントの方々は、慣れきってしまっていて、新鮮さがなく、誘致活動を行っても虚しさを覚えているのが現状です。これから広域的な東北の観光宣伝を行う際には、各県や市が別々に行うのではなく、東北6県が連携して進めていくことが大切だと思います。別々ですと、どこの県ではどんなお土産であったとか、今度は何をもらえるのかなどという打算的な話もでてきます。是非東北6県で、あるいは少なくとも3県が一緒になって活動をするよう観光宣伝の形を変えていかなければならないと思っています。

国際観光につきましては、連盟におきましても、年2回アジアに向けて誘致活動をしています。しかし、中国や韓国に行きましても、やはり東北の知名度が大変低いです。ただ、大変ありがたいことに、国内とは違い、エージェントの皆さんが本気であり、目の輝きが違うのです。東北というのは大変新鮮味があり、興味を持って聞いてくださいますが、一番のポイントは東京、関空からどのように東北に行くのか聞かれます。関空まで入る大きな地図を広げて、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島と説明をするところから始めなくてはならず、この分野は、はじまりの土俵についたばかりだと思います。

FITのお客様が大変多いです。エージェントの話では、各空港に着いてから、それから先2、3人の旅行の場合はどのように行ったらよいのかというのが問題であり、二次交通の問題はこの点でも重要だと思います。

恩地部会長

ありがとうございました。

ちょうど国際観光旅館というお話しもありましたので、宿泊関係ということで、日本ホテル協会の青木委員をお願いします。

青木委員

日本ホテル協会の3月まで支部長をしておりました青木です。

資料6を見た感想を申し上げたい。これは、3月の本審議会でもお話ししたことで、東北に外国人観光客が訪れないのは、東北を知らない、したがって関心が薄いということに尽きると思います。

知名度を上げる大事な手段としては、コンベンションだと思います。この点が資料から抜けている。コンベンションの効用としては、「行ってみたらよかった。」と思えば、今度は仲間であるいは家族で行こうじゃないかということにつながるのだと思います。東北の中心に仙台がありますので、仙台という言葉使いますが、事務局からはやて効果という話もありましたが、仙台でコンベンションを開催した場合、便利になった新幹線で行こう、そこから三陸へ行こう又はもっと遠くへ行こうということで、東北6県へ波及していくのではないかと思います。

7、8年前だったでしょうか、まだ仙台とシンガポールを定期便が飛んでいた時期に、シンガポールからエージェントを呼んで、東北6県を觀てもらって売ろうとしたことがあった。そのときに、最終日に各県の宣伝映像を見せて頂いたが、全ての県で温泉と夏祭りとスキーの3つしか題材がなく、県のタイトルを変えればどこの県かわからない、あるいはどこの県と言っても通用するようなものであった。何か新しい観光資源を加えるべきだろうと思います。一例としては、今年も来ているようですが、カナダのサーカスでサルティンバンゴというのが東京に来たときに、台湾から何万人も来たのです。こういったものにも目を付けるべきではないかと思います。こういう点では、今度、劇団四季の「キャッツ」の公演が仙台であります、これを題材として売ることも考えられるのではないのでしょうか。

次に、レンタカーについての記述が抜けているのではないかと思います。これについても事務局で検討して欲しい。

レンタカーに関連して、イラク戦争の際の映像を見て1つ気がついた点があります。道路標識に関してですが、日本の標識は日本語の下に英語が書かれており、非常に見にくい。これに対して、イラクの道路標識は真ん中に線があり、右か左か忘れましたが半分にアラビア語、反対に英語で書かれていて、運転していて大変見易いだろうと思いました。

恩地部会長

全般的なご示唆を頂き、ありがとうございました。

次に、旅行業のお立場から山川委員お願いいたします。

山川委員

旅行業協会の山川です。

国内旅行とインバウンドの2つに分けてお話しします。

国内旅行に関しては、最近の特徴的な点として、既に各委員からお話しがありましたように、1つは、ニーズの多様化が進んでいること。一人ひとりの求めることが違ってきている。2つ目は、従来の団体旅行から個人旅行に変わってきているということ。3つ目は、高齢の方の旅行が大変増えているということ。したがって、高齢化に対応した旅行の開発が重要になってきている。4つ目は、インターネットによる販売が増加していること。したがって、インターネット上の地域を売る商品が大変重要になってくると思います。

これは、青木委員からもお話しがありましたが、従来のあるものを宣伝していくということも大事ではありますが、これからは、新しい旅行需要を自ら創造して、そこにお客様を持ってくるというようなことが大事になってくるだろうと思っています。地域の中のイベントであり、あるいはコンベンションであり、それぞれ自分たちの持っている視点であるとか、地域の文化・芸能などをミックスした旅行需要の創造が、今後大切になってくるだろうと思います。

次に、二次交通のお話しがありましたが、昨年、私どもの会社で東北のキャンペーンを行いました、ここで一番の問題となったのが二次交通でした。空港についてお客様、あるいは新幹線駅についてお客様、それぞれ高齢の方が増えれば増えるほど、

自ら車を運転するという事は少なく、こういった方々への対応した二次交通の整備が大切であろうと思います。

もう1つは、広域という観点で話しますと、1回の旅行で東北全体を回るという商品はなかなか造りにくいし、売りにくい。少なくとも北東北、南東北という分けた形の商品造成が、広域という観点の商品上はいいのではないかと思います。

国内旅行については、このようなお客様の变化を十二分に捉えた施策が必要であろうということです。

続いて、外客誘致についての問題ですが、各委員のお話のとおり、東北という地域が認知されていないという点です。「北海道」という言葉は外国の方がわかっても、「東北」という言葉がわからない。「東北」ってなんですかと、実際に台湾の方から質問されます。したがって、「東北」という言葉を、もっと外国の方々へ売ることが大事だと思います。

さらに、外国人の観光振興では、受入と誘客活動が2つの柱であろうと思います。誘客活動についても、上滑りの誘客活動ではなく、実際に商品造成をしてくれるキーマンとなる方々と、どのような接触ができるかというのが最大の課題であると思います。また、一般消費者が「東北」を認知できるような宣伝・誘致活動を台湾や韓国ですることが必要ではないかと思います。

恩地部会長

ありがとうございます。

お隣、中谷委員、交通関係、特にエアラインというお立場でお願いいたします。

中谷委員

仙台の航空事業者の団体の代表ということで出席しております。東北6県いろいろな会社が就航していますが、仙台には9社、日本航空、日本エアシステム、全日空、ドラゴンが香港、アジアナが韓国、コンチネンタルがグアムで、中国国際が北京、中国南方が長春、フェアリンクが成田線と国内一部です。

現在、宮城県から9社飛んでいる中では、グアムとハワイについては、一方通行状態で、現地からのお客様はなかなか集客しづらいという状況にある。しかし、香港、韓国線があることと日本航空、全日空の国内線の部分によってバランスが取れている。これは、客観的に、航空会社が東北各地と主要都市との路線を持っていること、日本航空グループと全日空グループが東北各県に就航し、国内の主要都市と結んでいることで、地域的にはバランスが取れていると思います。

これらの路線を使って、どのようにエアラインが誘客にかかわっていけるか考えていくべきであると思っています。

しかし、私を含め、各航空会社の支店等は、アウトバウンド、こちらから出る方のノルマは持っているが、インバンド、受け入れのノルマは持っていないのです。したがって、就航している各県から出す販売ノルマは課されているが、受け入れについては、評価につながっていないという問題がある。これは、航空会社の意識を変えていかなければならないと思っています。実際に航空機に乗ってきていただけるお客様を、会社がどう評価するかという観点から、東北6県にお客様を誘致して来るために、地

域に根ざした出先機関という位置付けを、改めて各航空会社の支店の方々が考え直すことが必要だと思っています。

恩地部会長

只今のご指摘は、今後の大きな課題を提起して頂いたと思います。受け入れが評価につながる中で、誘客をするためにどうするかという、大変いいご指摘を頂きました。

続いて、東北6県で経済活動をされている津嶋委員お願いします。

津嶋委員

今回、この観光戦略部会が設置されたことは、大変タイムリーであると思います。それは、各県からお話しがあったように、また各経済団体でも観光に関する動きが強まってきており、それをこの部会でまとめていうことですので、大変いいタイミングだと思っています。

この戦略部会は、具体的な課題で各県が一致して行えるかということが問題だと思っています。誰が、どのように行うのか、具体的な役割分担を探って欲しい。

部会長からは東北6県とご紹介を頂きましたが、主として仙台で展開しています。商工会議所で行う事業は、なかなか具体的なことができません。唯一具体的にやっているものとしては、仙台空港の活用問題です。これは、仙台空港を利用するエアラインやエージェンツも参加して、具体的に、こういう商品売ろう、誰をターゲットとするか、どのように売るかという話をし、誰がやるかというところまで決められる。このときには、県や市が予算も持ってやって頂いた。

本日の会議にも多くの資料が提示されているが、これそのものには異論はないが、具体的に実施する際に、どこがやるのかということが見えてくれば、これがいい戦略となるのではないかと期待しています。是非、実現することを踏まえた検討をお願いしたい。

恩地部会長

ありがとうございました。ご指摘の点につきましては、2回目、3回目と重ねる中で検討していきたいと思っています。

ちょうど志賀委員が追い求めておられる東北の観光というものについて、有意義なご意見を多数頂きましたので、次に、志賀委員お願いします。

志賀委員

東北をたくさんの方に来ていただけるような地域にしよう、あるいは域内の交流が高まり、経済にも波及し、住んでいていいなという誇れる地域になればいいという視点でお話しします。

冒頭、局長のごあいさつにありましたように、確かに今、観光に対する目は強くなっており、リーディング産業とか、けん引役という評価もされてきています。しかし、このような評価を鵜呑みにしてよいのかという感じがします。それは、現在の経済状況などから、これまでけん引役であった産業が衰退し、相対的に観光が、特別の努力もしないままに、今の評価につながっているのではないのでしょうか。そういう意味では、観光にはまだまだ余力があると思っています。特に、東北の観光については、ポ

テンシャルを活かしきれていないという説明がありましたが、ではなぜ活かしきれないのか。「活かしきれない」という言葉で終わるのではなく、活かしきれない理由は何か、例えば、私たちに見る目がないとか、感じるができないとか、知りすぎていて魅力がわからなくなる等いろいろなものがあるとは思いますが、こういう混迷の時期こそ、原点に戻って物事を見る必要があると思っています。私は、悲観的に考えるのではなく、九州や四国や他の地域より、東北がぐいぐい引っ張っていく、観光立国、観光立県、観光地域でありたいと願っています。

東北が元気になるためには、ここで「戦略」という言葉が諮問文にもありますが、「戦略」というと極端な例ですが、関所でも設けて、東北にたくさんの人を囲い込み、東北の外に出さないぞ、というくらいの発想が必要なのかもしれない。そんなことは許されることではないけれども、自分たちの地域に、多くの方に来てもらおう、滞在してもらおうというからには、ターゲットを絞って、戦略を立てなければ、それはできない。なぜかという、他の地域もがんばっていて、東北には負けないぞと努力しているので、私たちが努力を積み重ねたからといって、他の地域よりも伸び率を高くしていけるといった保障はない。このあたりのところを根本として考えなくてはいけないと思います。

資料5として、主要論点が8つありますが、これを全て足し算して、他の地域よりも競争力のある観光が東北で展開されるかと考えると、私は、メリハリというか柱が弱い感じがします。今日この場で、では何をどうするかという答は出ませんが、このメニューは全国で行われている施策が多く、戦略というからには、これは「東北ならではの」というメリハリの効いたものを2つ、3つ入れていくことが必要だと思います。

最終的には、「観光地をつくる」ということではなく、「いい地域をつくる」ことだと思います。私たちが生活をして、食べていけて、普段の生活をしっかりとできるといったところに、魅力を感じている人が訪れるというのが本来の旅だとするのなら、東北というのは訪れたいくなるような、訪れるに値する地域になっているのかという確認が必要です。

そのとき、最近の農山村に目を向けて、東北の「ならでは」と言える観光ポイントはどこか、もちろん大きな海、山というのがありますが、農山村という1つのコミュニティだとか、地域だと思ふのです。ここが、どんどん痩せ細ってきている。そうになると、観光対象がどんどん減ってきてしまう。結果、そこへ向かう観光需要が無くなるということになるわけですから、東北の特性を考えると、観光バスでの対応というよりも、日常の路線バスの利用という形をもっと充実させ、普段の生活の中に様々な方が、観光も入り交じって東北を楽しむということが大切ではないでしょうか。温泉もあり、神社仏閣もありというように、地域の力を削がないような形を整えながら、外からの人を迎え入れるということをしていかなければならないと思います。

恩地部会長

ありがとうございました。

これまで、緊急にやらなければならない課題として、知名度、長期滞在、広域観光、レンタカー、二次交通等々いろいろ頂きましたが、これは課題として吟味し、具体的

なものとしていきます。

「危機感」というのが私の売りでございますが、この「危機感」というのも課題に入ろうかと思えます。

さて、次ぎに自治体に戻りまして、山形県の野村部長お願いします。

野村委員

山形県でございます。

各委員のお話を聞いていて、課題などもまさにその通りと思っていました。

山形でも観光客の動向を見ますと、このところ若干右肩下がりとなっています。平成13年度は1%増加しましたが、傾向としては下降線です。

基本的には、観光地づくりというよりも、地域づくりの中で観光を考える取り組みをしている。地域の観光業、商業、農工業の方々、行政が入り、どのように観光客を受け入れるか、いいものが提供できるかを話し合っています。これにより、足湯等地域の方々自分たちで維持できる施設を自ら作ったり、地域の方が総出で道路清掃をしたり、いろいろな試みをしながら、温泉を含めた地域づくり、魅力アップに取り組んでいる。

経済的観点からも、如何に地元のもを提供できるかという、いわゆる「地産地消」の取り組みを行っている。料理にしても、お土産にしても、地域のもを極力使ってもらえるような取り組みをしている。

山形県は、残念ながら国際空港がないため、近隣の宮城、福島及び秋田との広域的な取り組みを強化していきたいと思っています。今後、このような会議の中で、東北全体を盛り上げていく取り組みに積極的に参加していきたいと思っています。

恩地部会長

ありがとうございました。

続いて、福島県須賀主幹お願いします。

丹野委員(代理：須賀主幹)

福島の観光PR事業の中心は、県と市町村、民間で組織しているキャンペーン推進協議会で、平成6年から継続して行っています。これまでの間に、国体、磐越道の開通、13年の未来博などの大きなイベントがありましたが、今後、このようなものが予定されていません。15年度から3年間の第4期のキャンペーン推進事業を行っていくときに、どのような形で行うか議論した中では、個人型の旅行、高齢者の旅行にターゲットを絞り、首都圏を中心に、あるいは高齢層を意識した事業を展開していくこととしています。

また、福島県は県土も広く、特に関西以西では位置も覚えてもらえない、イメージも沸かないという状況にある。会津地方はもともとイメージができてはいるが、この際、会津地方、中通り、浜通りと3つに分割して、地域の関係者がそれぞれの地域で話し合い、PRをしていこうという手法を取り入れたことが第4期の新しい事業です。

今年度は中通りを、花、松尾芭蕉を中心テーマとし、方面別に議論をして進めていく。来年は、大河ドラマ・新撰組、新札の野口英世を題材に会津地方、17年度は浜通りと各地域で議論しながら進めていくこととしています。

事務局の説明もありましたが、「会津ぐるっとカード」の7月1日発売開始、観光交流空間づくりモデル事業も会津地方として申請しています。また福島県全体のPR事業として、野口英世を今回のテーマとしており、今年、来年はいろいろな形で会津に効果が現れるのではないかと考えています。

国際観光については、上海、韓国・ソウルが就航先となっている。先日、知事がソウルに行った際には、今、韓国ではゴルフが人気であり、もう少し価格等を抑えれば誘客できるのではないかとか、北海道へ多く観光に行くが、ゴルフに関しての立地条件では福島県の方が有利であるなど、いろいろなアドバイスをもらってきました。

恩地部会長

ありがとうございました。

続いて、仙台市黒田参事お願いします。

佐藤委員(代理：黒田参事)

仙台市の観光振興の方針についてお話しします。

平成11年に10年計画の基本計画を策定しました。このときは、「自然と都市の調和」、「まちと融合する観光振興」、「市民と共同して創る観光振興」、「東北と連携する観光振興」という4つの視点を柱にしています。

連携としては、山形県と昨年来、研究会を開催している。今年度は、これと並行して、集客力に的を絞った形で、ビジターズ産業の調査を行うこととしています。仮説的には、都市観光として、コンベンションやイベント、ショッピング、宿泊、飲食、ミュージアム等の施設をどうつなぐか。コンベンション・イベントに関しては、スポーツイベントであるサッカー・ユースやベガルタ戦、演劇、コンサート、ミュージカル、映画その他です。仙台ジャズフェスティバルや光のページェント等市民創造型イベントが増えてきています。これらを季節ごとに、うまく創り出していけないか考えています。

また、修学旅行や生涯学習としての体験学習といったところも、観光資源としていけるのではないかと考えています。

恩地部会長

ありがとうございました。

では、最後にこれまでのご議論のまとめということで、清水部会長代行をお願いします。

清水部会長代行

部会長代行として、まとめさせていただきます。

意見を交えながら整理させていただきますと、1つは、観光による交流人口を増やすことの意義を、もう1度共通の認識として持つことが必要だろうと思います。県によって考えに濃淡がありますし、経済界でも迫力を感じていない方もいるようです。山形県でいい調査をされていますが、観光交流人口が10万泊、県外宿泊客が10万人増えると、定住人口が1,900人増えたに等しい。それだけの個人消費があるという調査でした。直ぐ産業振興、工場誘致などいろいろな話になりますが、観光はかなり意義があることであり、いろいろな場で話していきたいと思います。

交流人口をどのように増やしていくかということですが、とりわけ海外、あるいは首都圏、関西といった大量消費地からどのように誘客するか。1つは、東北6県が一体的にキャンペーンを行わなければならないであろうということです。北東北はかなり一体的になりつつありますが、南東北も含めて一体となることが必要だと思います。東北については、まだ未知の分野が多い、知られていないということです。私ども、首都圏で調査をしたことがありますが、やはり東北のイメージは、遠い、寒いで、かなり固まっている。新幹線ができて、東京 - 名古屋、東京 - 大阪と同じ距離、同じ時間なんですと言っても、遠いというイメージなのです。東北では、「北東北だ」あるいは「南東北だ」と言っても、首都圏や関西では一緒に見えるので、逆に一体的にイメージ形成をしていったほうがいいと思います。そういう意味で、キャンペーンを個別に張るということは、経費の無駄ではないかと思います。

2つ目として、東北6県全体のレベルアップを図ることが必要です。これには県のリーダーシップが必要だと思います。例えば、6県どこに行ってもインフォメーションセンターがあるとか、どこに行っても標識がわかりやすいとか、ホームページが6県一緒になっているとか、二次交通がどこへ行っても整備されているとか、そういった全体的な底上げを6県一緒になってやらなければいけないと思っています。

3つ目は、「東北ならでは」の差別的なアピールをどのように行っていくかということです。とりわけ、九州、北海道、沖縄と競争していかなければならないのですが、自然、温泉だけではなかなか勝てないと思います。「東北ならでは」のアピールを、あるいは素材の養成をしていかなければならない。東北には地域の良さがああり、地域づくりを進める中で、良さをどのようにアピールしていくか、その中で、歴史と文化を如何にまぶしていくか、そういうことが必要だと感じています。

最後に、観光については、各地が真剣に取り組みはじめており、各地の競争となりつつあります。早いうちに、東北が成果を出すことが不可欠だと思います。そのため、東北運輸局のいろいろな意味でのリーダーシップをお願いします。

恩地部会長

ありがとうございました。

冒頭のあいさつでもお話ししましたが、この機運をどのように活かしていくか、それと同時に、同じような取り組みを各地域でも行っているという認識を、志賀委員のお話にもありましたし、清水委員の総括でもありました。また、各委員からもお話しがありました。これを第2回の部会へつなげていくように考えていきたいと思っています。

最後に事務局からお願いします。

久米東北運輸局長

本日は大変熱心なご討議をありがとうございました。貴重なご意見を頂き、今後の審議に活かしていきたいと思っています。戦略というのは、個々の項目を決めると言うよりも、やはり東北の関係者が協働するという認識を、まず共通化する必要があると思います。取り組みの半分は「競争」で、半分は「協力」ということが大事ですが、その半分「協力」するという部分について、コンセンサスを得て進めていきたい。具体的には、今後ご議論を頂くこととなります。各県でも、観光振興施策についてご努力

されると思いますが、各県の立場で「差別化」しなければならないことが多々あるということですが、半分は東北全体のためにしていただいて、それがひいては各県のためにもなることだと思いますので、お願いします。

各委員からお話がありましたように、観光の動きは激しいので、当面、中間報告という形で、緊急に取り組むべき点について、まとめていただき、また、地域づくりなどについては、ある程度時間をかけて、本答申という形にしていただければと思います。

本日はどうもありがとうございました。

事務局(江原企画課長)

次回、素案を提示させていただきたいと思っており、そのための貴重なご意見を本日頂けたと思っております。事務局としても精一杯努力して参りますので、よろしくお願いいたします。

第2回の観光戦略部会の日程でございますが、9月中旬頃を予定しております。詳しい日程につきましては、改めてご連絡させていただきます。

以上でございます。

4. 閉会

恩地部会長

それでは、以上を持ちまして、本日の議事を終了させて頂きたいと思っております。ありがとうございました。

以上